

日本共産党湘南地区委員会

青年・学生オーガナイザー

小松崎 和奈さん

SNS、書籍 怒りを蓄える

日々の情報収集も、エネルギーを得られる大切な活動です。時々刻々と流れていくSNS投稿、ある程度どっしり構えている書籍。

性格は正反対ですが、どちらも女性がおかれている現状への怒りをエネルギーとして蓄えることができます。

私にとって、特に大切なのはSNSのチェックです。SNSの強みは、一般市民が気軽に生の声を投稿

できること、時事問題についてさまざまな角度からの意見が見られること、この

もSNSの特徴です。私だけでは気づかない切り口で分析するフェミニストも大勢います。さまざまな角度から時事問題を見ることで、自分の中での認識も深めることができます。

2点だと考えています。私自身、フェミニズムに触れたきっかけは旧Twitterでした。当時日々感じていたモヤモヤが的確に言語化されており、自分の怒りは正當なものなんだと安心したことを覚えています。誰でも発信者になれることがインターネットの特徴ですが、SNSはそれが顕著です。ひとりのモヤモヤが全員のモヤモヤになり、世論を動かす力になっていく。自分と同じ境遇の人が声をあげているのを見ると、それも新たなエネルギーになります。

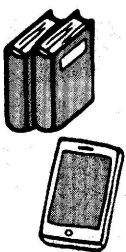
本を読むことも、同じくらい重要なエネルギーとなります。私が一番衝撃を受けた本は、キャロライン・クリアド・ペレス著『存在しない女たち』。あらゆる角度から「社会を構成するモノ・概念はほとんど白人男性規格で作られているのではないか」と華麗に告発していく一冊です。

時事問題についてさまざまな議論が交わされること

本の良いところは、汎用性のある知識を得られることだと思えます。フェミニズムも生きた運動ですから、ある程度時流に乗っていく必要があります。しかし、悲しいことですが、女性差別の構造そのものは、ちよつとやそつとの運動で変わるものではありません。そんな中で羅針盤となるような本があることは、私の大切なエネルギーになっているのだと思います。

私言もいたい

— フェミニスト編② —



私の大切なエネルギーになっているのだと思います。